

ザック・プレコップ Zak Prekop

2019年1月19日(土) - 2月17日(日)

オープニング: 1月19日(土) 18:00-20:00

水 - 土 11:00 - 19:00 日 12:00 - 17:00 (月・火・祝 休廊)

HAGIWARA PROJECTS

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-18-2 サンビューハイツ新宿 101

T/F: 03 6300 5881 E: info@hagiwaraprojects.com

www.hagiwaraprojects.com



“Half Pathway” 2018, oil on muslin, 66 x 58.4 cm

Early and Lateというタイトルは、狭間の時間を示している。ある瞬間の前、あるいは後。このペインティングは、色の出現の前、あるいは後に存在している。このタイトルが頭に浮かんだのは、ジョン・ケージの弦楽四重奏曲を聴いている最中で、彼の初期や後期のそれらの曲は、偶然への依存というケージの思想を、あまり直接的ではないやり方で表現していた。その思想は、初期の作品では彼のメロディックな感受性によって制御されており、また、晩年のものでは、彼のナンバーシステムの曖昧さによって、不透明なものになっている。

青いペインティングの展覧会にしようと思図したわけではないが、そういうテーマが、単純な形ではあれ、作品たちをつなぐことになったのは嬉しく思う。著述や展示の中で私はたいてい、個々のペインティングの区別を強調する。つまりそれぞれの作品が、他の作品との関係性というよりも、それ自身と向き合うような状態だ。今回もそれは同様ではあるけれど、色の調和が、これまでの私の展覧会とは違う、新しい空気感を生み出している。この個展の裏タイトルのようなつもりで、この絵画を**Blue**と名付けた。

去年、デトロイトを訪れたとき、**Peoples**というレコードショップに行った。店内では地元のゴスペルミュージックのアルバムが流れていて、それはむしろ教会の説教に近い類のものだった。そして売り物ではないとのことだった。ショップのオーナーが友人のためにキープしていたものだった。

Café - Table - Musikはフランコ・バッチェアートがつくった曲のタイトルだ。音楽が、直線的ではなく、テーブルのように面的に広がることできるという考えが私は好きだ。この曲を聴いたときに素晴らしいと感じて、このペインティングによく合うと思った。私はこの作品はイタリアの布絵のようにも見えと思う。タイトルは少し短くして**Table Musik**とした。

作品にはなるべく一般的なタイトルをつけたいと考えてきた。過去に多くの作品につけられたようなもので、いかにも作品タイトルらしいもの、たとえば「**Reflection**」(反射)のような。このペインティングに見られる形状はどことなく、水に浮かんだカヌーのように見え、さらに、中央付近の水平のラインを介して、画面上部から画面下部への不完全な反射が生まれている。この絵がチャールズ & レイ・イームズのレグ・スプリント(添え木)を思わせるように感じて、それについて考えているうちに、このタイトルに行き着いた。ただこの発想は、レグ・スプリントのデザインの医療的/軍事的な利用の側面とはまったく関係がない。

Half Pathwayという言葉は、この作品中で半楕円を形成する、黒と白のラインの回路に言及している。

すべてのペインティングは、道 (pathway) を備えていて、それが視覚的とは限らないが、ここではより直接的だ。

去年はメキシコシティにも行って、ルイス・バラガンが設計した家を見た。少しばかりコルビュジェを思わせる建物だった。といってもそれは私の知識の限りにおいてだし、バラガンの、あの独特の色使いも関係ない。あの青緑色の壁、マゼンタ色の柱、ラベンダー色の中庭が縁取る青い空。いつもの私の作品より少し多めに色を使ったこの作品のタイトルは、彼の名をもちいて**Barragans**とした。

作家略歴：

ザック・プレコップ Zak Prekop

1979 年生まれ、ニューヨーク州在住。2008 年 MFA, The School of the Art Institute of Chicago 修了。主な個展に ESSEX STREET (2018, ニューヨーク)、Shane Campbell Gallery (2016, シカゴ)、Galeria Augustina Ferreyra (2014, ブエルトリコ)、Hagiwara Projects (2014, 東京)、Galeria Marta Cervera (2010, マドリッド)、主なグループ展に、“Maximum Minimum in Unum” Miller Gallery at Carnegie Mellon University (2016, ポートランド)、“Civilization and Its Discontents: SAIC Alumni Exhibition curated by Scott Reeder and Tyson Reeder” Sullivan Galleries (2015, シカゴ)、“ESSEX STREET @ESSEX STREET” ESSEX STREET (2015, ニューヨーク)、“Painter, Painter - curated by Eric Crosby and Bartholomew Ryan” Walker Art Center (2013, ミネアポリス)、Art Statements (with Harris Lieberman) ART BASEL (2012, バーゼル)、“Pittsburgh Biennial” Carnegie Museum of Art (2011, ピッツバーグ)、プラハビエンナーレ 5 (2011, プラハ)、“Greater New York” PS1 (2010, ロングアイランド)、“Rich Aldrich, Zak Prekop, Lesley Vance” Roger Björkholmen Galleri (2009, ストックホルム)、“Varda Calvano, Matt Connors, Thomas Hylander, Zak Prekop” Karyn Lovegrove Gallery (2008, ロサンゼルス) など。